

南米ベネズエラ発祥の音楽教育プログラム

駒ヶ根

「エル・システマ」練習成果披露

南米ベネズエラ発祥の音楽教育プログラム「エル・システマ」に取り組み駒ヶ根市の子どもたちが24日、市内で開いた「エル・システマ子ども音楽祭2017 in 駒ヶ根」(市など主催)で演奏した。同国の障害のある若者らでつくるグループ「ララソム」も出演。子どもたちの練習の



「エル・システマ」で学ぶ子どもたちが演奏を披露した

成果や異国情緒あふれる音楽を、約千人が楽しんだ。

エル・システマは、音楽活動を通じて協調性や自己表現力などを育む取り組み。駒ヶ根市は、2020年東京五輪

・パリンピックの政府の「ホストタウン」構想で住民の交流相手国にベネズエラが登録されたこともあって、本年度からエル・システマを導入した。一般社団法人エル・システマジャパン(東京)が、楽器提供や講師派遣などで協

力している。この日は、7月から取り組み赤穂東小学校の児童らが、バイオリンで「メリーさんの羊」など2曲を奏でた。初めの発表で二音一音を丁寧に響かせ、5年の奥村美枝さん(11)は「緊張したけれど、う

まく弾けて楽しかった。ほかにも市内の小中学生や高校生らが合唱、和楽器の演奏などを披露。ララソムは合唱と民族楽器の演奏、手や腕などの動きで歌詞を表現する「サインマイム」が一体になつた舞台を繰り広げた。

伝統のろくろ細工子どもたち挑戦



「手挽き」で皿作り「難しかった」

写真が動くよ
スマホをかざしてね
(使い方は左下に)

手挽きろくろを体験する子どもたち

木曽郡南木曽町の南木曽小学校3、5年生約60人が24日、同町漆畑で江戸中期から続く南木曽ろくろ細工を体験した。地元の伝統工芸を知るため、南木曽ろくろ工芸協同組合の伝統工芸士4人に教わりながら、人がひもを動かして動力にする古い「手挽きろくろ」で皿を作った。

同校体育館を会場に、ひもを動かす人と、ホオノキにかななを当てて削る人が息を合わせながら、順番に体験。3年生の子どもらは伝統工芸士から「人力から水車、電気へと動力が変わってきたろくろの歴史も学び、「かななはどうやって作るの?」「どうしてひもを動かす?」など質問した。

松原陽君(9)は「かななの角度を変えるのが難しかった」、大宮一太君(9)は「ひもを動かすのが大変だった」と話した。同組合の野原広平理事長(66)は「こうした体験からろくろ細工に興味を持ち、将来やってみたいと思う人が出てくれればうれしい」と話し、子どもたちの作業を見守っていた。

南木曽

俳優の風間 24日、松本芸術館で講演座「信毎新聞社の女性ドラマで活躍ど取り組んでも披露し、集0人を沸かせ映画「蒲田」知られる風間で落語家役をに、落語を人ように人間的場人物に人間の



餅
いしく

飯田

食品製造販売業者が商品化

酒造会社の他は、手や指が難しいという酒米を使った餅を商品化し、販売している。餅の製造工程を動画で公開し、消費者の理解を促している。

白馬

地元の有志が、地域の活性化を図るため、白馬の魅力を発信している。

風間

信毎

きらら